

介護事業者の経営状況に関するアンケート Part 2

◆対象 神戸市老人福祉施設連盟、神戸市介護老人保健施設協会、神戸市シルバーサービス事業者連絡会に加入している下記の施設・事業所。

同一所在地の事業所の場合も、サービス種別ごとに回答いただく。（合計 973カ所）

◆実施方法 上記3団体事務局より、加盟施設・事業所に案内していただき、所定のURLから回答。

Googleフォームを使用したWEBアンケート（無記名）

◆実施時期 令和4年12月8日～令和5年1月27日

◆回答数 254件 ◆回答率 26.1%

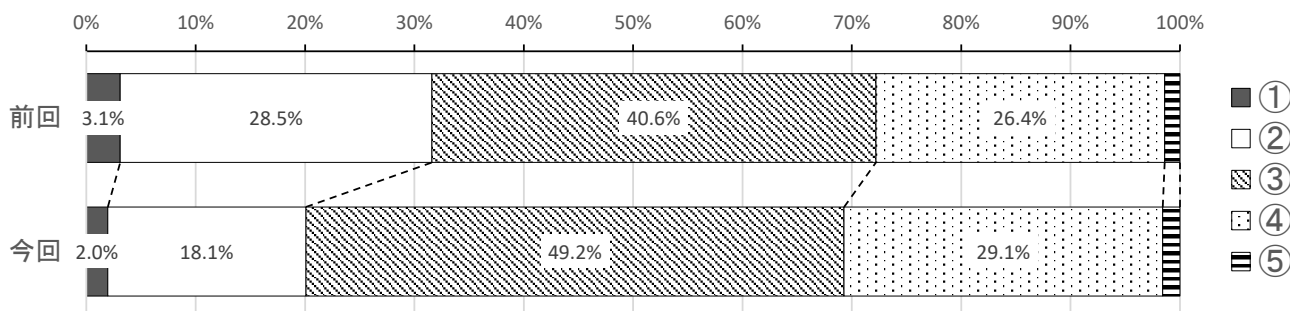
1. 施設・事業所の種別	回答数	対象数	回答率	前回	
特別養護老人ホーム(地域密着型を含む)	71	107	66.4%	77.6%	入居系
介護老人保健施設	30	50	60.0%	36.0%	
養護老人ホーム	5	8	62.5%	87.5%	
ケアハウス	14	30	46.7%	70.0%	
有料老人ホーム	5	27	18.5%	29.6%	
グループホーム	2	49	4.1%	10.2%	
ショートステイ	1				
通所介護(地域密着型・認知症対応型を含む)	44	190	23.2%	27.9%	通所系
通所リハビリ	8	54	14.8%	13.0%	
小規模多機能型居宅介護	4	22	18.2%	27.3%	訪問系
訪問介護(夜間対応型を含む)	26	171	15.2%	20.5%	
訪問入浴介護	1	10	10.0%	10.0%	
訪問看護	8	56	14.3%	5.4%	
福祉用具貸与	9				
居宅介護支援	26	199	13.1%	18.6%	居宅介護支援
合計	254	973	26.1%	29.6%	

2. 貴施設・事業所の上記のサービスについてお伺いします。

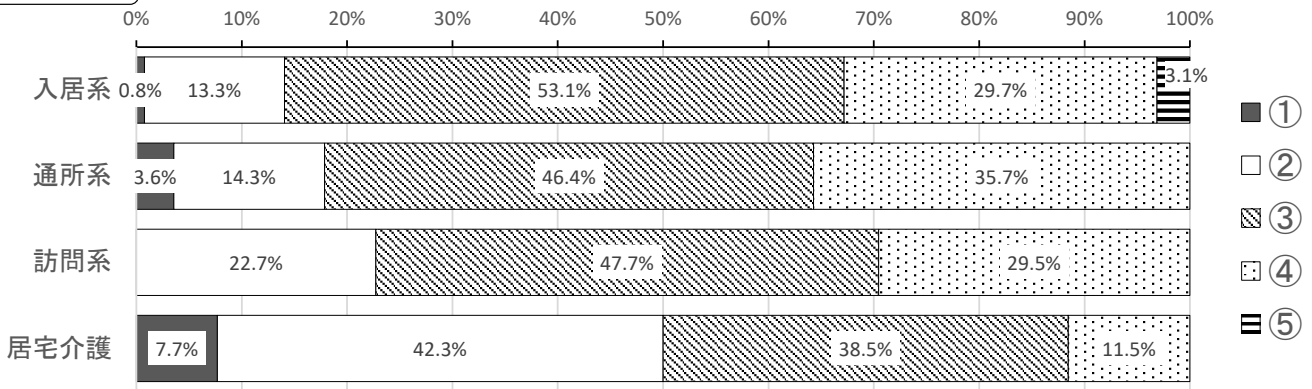
経営状況について、令和4年度上半期の実績は、コロナ禍以前と比較してどうですか。

前回

	回答数	割合	前回
①良好であり、コロナ禍以前より利益率等も上がっている。	5	2.0%	3.1%
②利益率等はコロナ禍以前の水準を維持している。	46	18.1%	28.5%
③利益率等が下がり、経営状況はやや苦しい。	125	49.2%	40.6%
④利益率等が大幅に下がり、経営状況がかなり苦しい。	74	29.1%	26.4%
⑤その他(新設のため比較できない)	4	1.6%	1.4%
合計	254	100.0%	100.0%



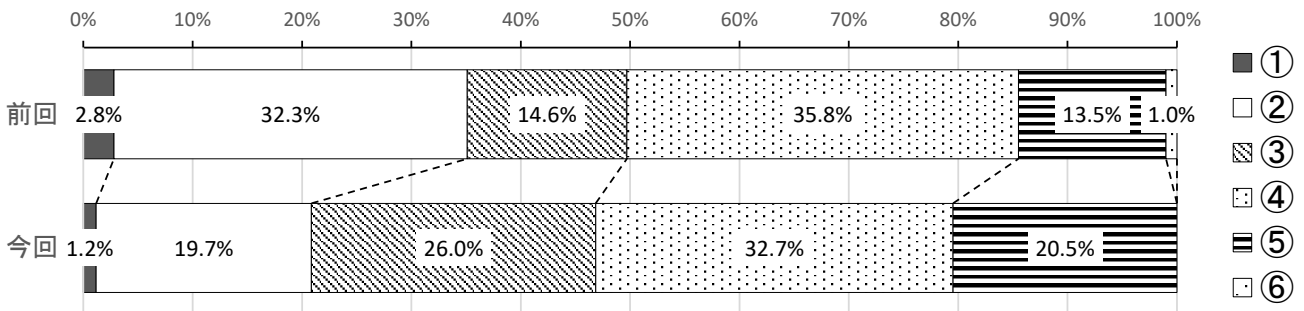
クロス集計



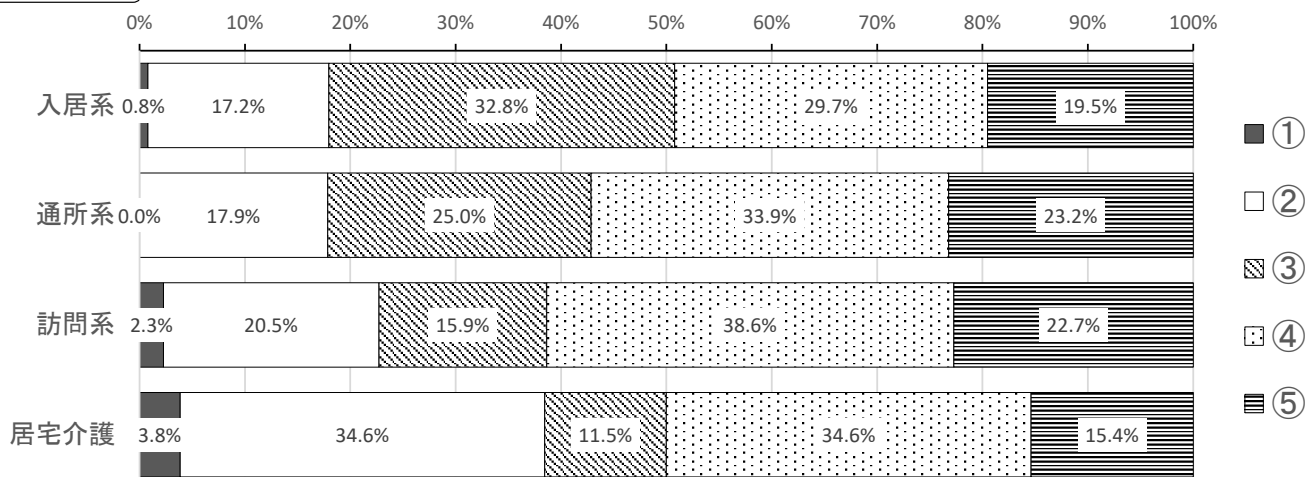
3. 現在の状況を踏まえて、令和4年度の決算見込みは、年度当初の見込みと比べて、概ねどのようになりそうだと感じておられますか。

前回

①良好であり、年度当初の見込みより利益率も上がると考える。	3	1.2%	2.8%
②経営努力により利益率等は年度当初の見込みの水準を維持できると考える。	50	19.7%	32.3%
③年度当初の見込みでは問題なかったが、今後は経営状況が悪化するとと思われる。	66	26.0%	14.6%
④年度当初からすでに経営状況がやや苦しい状態であり、この状況が続くと思われる。	83	32.7%	35.8%
⑤年度当初からすでに経営状況が苦しい状態であり、今後さらに悪化するとと思われる。	52	20.5%	13.5%
⑥その他	0	0.0%	1.0%
合計	254	100.0%	100.0%



クロス集計

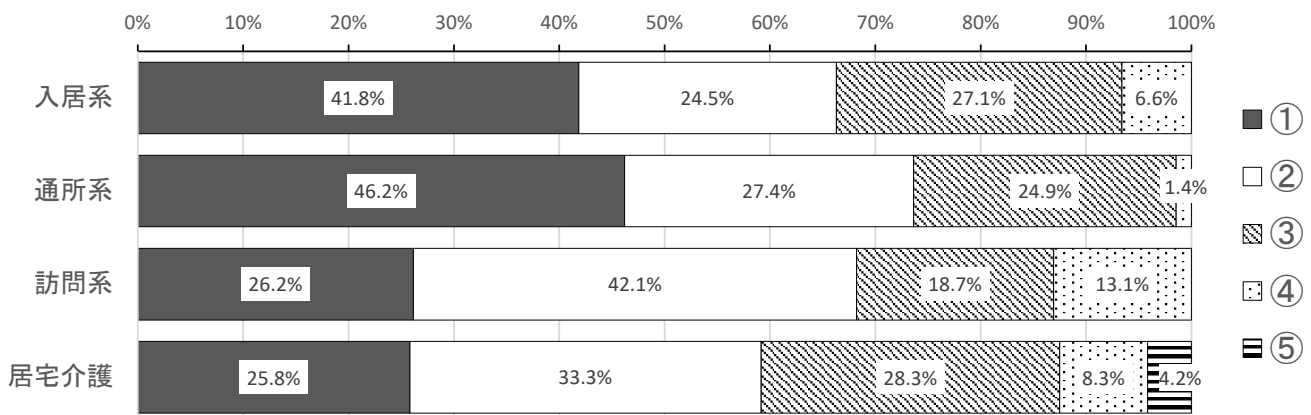


4. 経営を苦しめている(今後苦しみそうな)原因の1番目と2番目は次の内のどれですか。

	1番目	2番目	ポイント	割合	前回
①コロナの影響、物価上昇の影響による介護保険サービスの利用控えや、施設入居者の減少による収入が減少。	146	22	241.0	38.6%	38.6%
②人件費、人材確保費用の上昇による支出が増加。	62	88	181.0	29.0%	30.4%
③水光熱費、食材費等の物価上昇による支出が増加。	32	110	158.0	25.3%	23.4%
④備品購入や設備投資による支出が増加。	10	27	42.0	6.7%	6.6%
⑤その他(職員不足による利用者減のため収入減)	1	1	2.5	0.4%	1.0%
合計	251	248	624.5	100.0%	100.0%

※ポイントは、1番目の回答×1.5+2番目の回答×1として集計した。

クロス集計

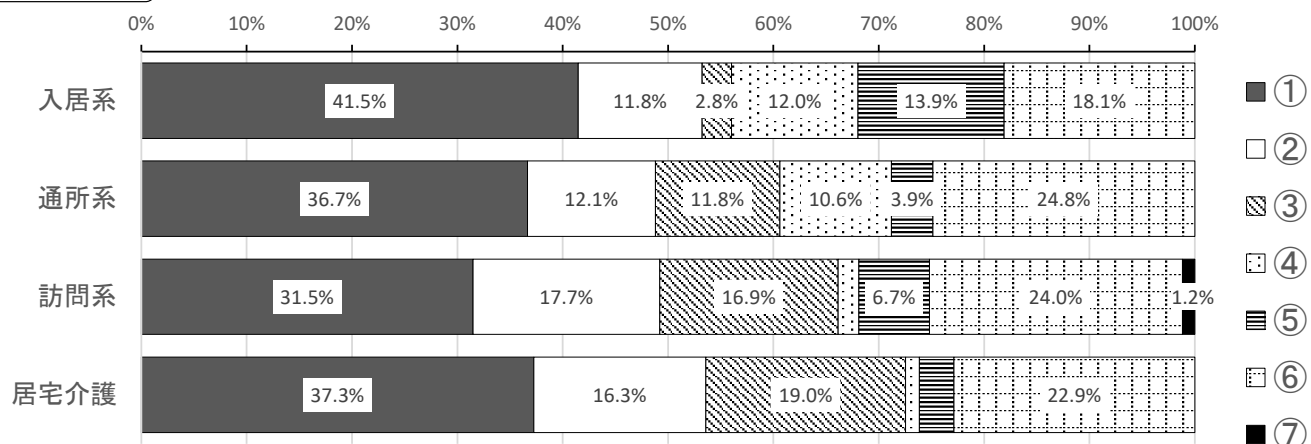


5. 昨今の物価上昇(今後の見込みを含む)で、経営に1番影響を及ぼすものと、2番目、3番目に影響を及ぼすものはどれですか。

	1番目	2番目	3番目	ポイント	割合	前回
①水光熱費、通信費	130	77	28	286.0	38.3%	32.0%
②賃料、設備等の維持費	26	38	45	99.5	13.3%	10.9%
③ガソリン代	15	23	41	66.0	8.8%	14.5%
④食材料費	5	41	36	66.5	8.9%	13.6%
⑤おむつ代、衛生用品等の物品費	9	33	47	70.0	9.4%	9.7%
⑥人材紹介手数料・求人広告費	64	37	49	157.5	21.1%	18.4%
⑦その他(販売商品の仕入れ価格の高騰)	1	0	0	1.5	0.2%	0.9%
合計	250	249	246	747.0	100.0%	100.0%

※ポイントは、1番目の回答×1.5+2番目の回答×1+3番目の回答×0.5として集計した。

クロス集計



6. 経営状況が悪化した場合、利用者に影響が及ぶかも知れないことは何ですか。(あてはまるもの全てにチェック 前回)

食料費の高騰により、利用者の食事メニューや料金等の見直しが必要である。	124	49.0%	59.9%
施設・事業所の設備、備品の充実を図ることができない。	168	66.4%	71.7%
人件費の高騰、人材不足により、人員基準よりも手厚い介護ができなくなる。	182	71.9%	78.6%
廃業、サービスの停止等により、現在の利用者サービス提供できなくなる。	57	22.5%	18.7%
その他	3	1.2%	0.5%

<その他の内容>

- ・ 職員がコロナ陽性になることで、健全なサービス提供の維持が出来ないことがある。
- ・ 人材採用にかかるコストが年々上がっており、しかもまともな人材が少ない。
- ・ 派遣単価が上がりすぎて使えない。(派遣の方が時給が良く、責任も少ないため、派遣での就業を希望する人が多すぎる。)何らかの規制をしてほしい。
- ・ 介護系の学校が少なすぎて、新卒の確保にも非常に苦慮している。
- ・ ユニット型施設運営の限界を感じる(人員が多く必要、人材教育のしづらさ等)
- ・ 人員確保ができないことで、当事業所を希望されても担当できないことや他の事業所へ変更するなども考えられる。

7. 今後の経営について思うところを自由に記入してください。

<コロナの影響>

- ・ 順調な稼働を維持できていても、コロナによるクラスターによる利用中止等で一気に稼働が下がってしまうことがあり、売上の予測がしづらい。(入居系・通所系)
- ・ コロナ禍により、病院からの紹介が減少していることや、物価上昇が著しいため利用者負担を今後、見直さなければならない状況である。コロナ感染対策で職員が疲弊しているなかでモチベーションを上げるための施策も大変重要となってきている。(入居系)
- ・ コロナ禍の終息が見えず、具体的な見通しが立たない。(入居系)

<物価・人件費の高騰>

- ・ 収入には限りがある中で、今後さらに上がり続ける光熱費や物価高騰が及ぼす影響が不安。(入居系)
- ・ 物価等が高騰するにあたり、同じサービスを提供するには、費用が必要。(入居系)
- ・ 光熱費の高騰が厳しく、その上に利用者コロナ陽性者が出ると受入を制限するために収益が低下する。(入居系)
- ・ 収入においては頭打ちなので何とか経費を見直す必要がある。(入居系)
- ・ ユニット型特養で、昨年8月の自己負担段階の改定以降、待機者が減少し従来型へ転居されるなどの現象が起きており、稼働率確保が難しくなっている。経費増加・修理費増加と合わせて収入減の影響をもちに受けている。(入居系)
- ・ 最低限必要な施設の維持費、介護現場の人材を含めた運営費をどのように捻出していくのか、コロナ感染を防ぎながらの営業活動等を含め、介護施設を介護施設として保っていく事の難しさを感じている。(入居系)
- ・ 設備を充実させること、人材の育成研修に力を注ぎたい。(入居系)
- ・ 人材不足は、利用者の不利益につながる。(入居系)
- ・ 人員の確保が一層難しくなっている。人材確保に係る経費が増加している。建物が老朽化(築26年)に差し掛かっており修繕費が増加している。ナースコール、エアコン、エレベーター等修理をするにも部品が無く更新を余儀なくされているが、全ての価格が上昇しており、資金繰りに目途が立たない。また、半導体不足により品物が入らない、価格も高騰している。人員については、人員配置基準の見直し。資金繰りについては、設備更新等に係る新たな助成金制度の開設を願いたい。(入居系)
- ・ 自分の施設は介護老人ホームであり収入(措置費及び介護保険報酬)で大きな変動は見られないが、やはり近年は物価高騰に伴い大きく支出が増えている。それらを克服し職員の給料を大幅にアップできるような仕組みを作って欲しい。(入居系)
- ・ 収入は増えないのに経費ばかりがかさんで先が見えない。稼働率をかなり高水準で回していけないと難しい状態で、人員も不足、現場が疲弊してしまう。(入居系)
- ・ 介護職員の確保が年々厳しくなっている。(介護職の人材がこの先どの位いるのか)。(入居系)
- ・ 人材確保が困難となっている中、職員の質の向上や定着、サービスの質の向上に努めるには難しい。介護業界全体で研修・教育ができるシステムや人材確保ができれば良いと思う。(入居系)
- ・ 入居希望者の減少、職員の人材不足(職員の高齢化・新卒者の減少)、物価高騰等全てにおいて経営面では不安要素しかない。(入居系)

- ・ある程度、稼働率が高く運営出来ていても、コロナによるクラスター等で入所やショートステイの予定が無くなったりすることで、急激に稼働率が下がってしまうことがあり、一度下がると、上げるのに時間が掛かり、収入が減少してしまう。光熱水費や、給食委託費（食料量費）の高騰により、支出が大幅にUPしている。収支のバランスが取れなくなってきており、経営を圧迫している状況。（入居系）
- ・人材不足が最大の心配。人材不足で今いる職員の負担が大きく、いつ辞めてしまうかと思うと事業を継続していけるか不安になる。
- ・コロナ等により休まれる方も多く、様々な原因で中止、終了となることも多く、稼働率の低下、売上の減少につながってしまっている。光熱水費や、給食委託費（食料量費）の高騰により、支出が大幅にUPしている。収支のバランスが取れなくなってきており、経営を圧迫している状況。（通所系）
- ・コロナで収入が減ってきてても社員には決まった給料の支払いがあり、資金繰りがしんどい。（訪問系）
- ・物価高騰の先行きが見通せない所に不安がある。（訪問系）
- ・特に訪問介護の人員不足が顕著。（訪問系）
- ・現場の介護職員の人件費を手厚くすることはしているが、現状の報酬では会社経営がますます厳しくなっている。常勤職員の社会保障費、有給休暇など支払い義務が増えていくばかりである。（訪問系）
- ・神戸市より物価高騰への補助金が支給されるが、この補助金以上に物価が高騰しており、経営運営上、大きな不安要素となっている。更なる補助金の支給を要望する。（居宅介護）
- ・経済状況の影響から経営面の課題が山積する中で、利用者の家計も大きな影響を受けている。また波及して心理面での影響も出始めていると思われる。利用控えも課題だが、利用者・家族によるハラスメントもその一環として理解すべき時期が来ているかもしれないと感じている。（居宅介護）
- ・居宅介護支援専門員の更新講習の機会を増やしてもらいたい。人材確保に支障あり。（居宅介護）

<報酬・制度>

- ・介護報酬が上がらなければ改善も出来ないなので、基本報酬を上げて欲しい。（入居系・通所系・訪問系）
- ・小手先の「〇〇手当」ではなく（事務量が無限に増える）介護報酬を上げて欲しい。介護報酬の原資として「介護認定に係る費用」はAI導入などで人力投入を少なく。例えば主治医の意見書は簡素なものにし文書料を下げるとか認定調査も簡素化し主観を廃して、認定調査会も定員を減らすなど、国民負担が増えるより節約で乗り切って欲しい。（入居系）
- ・ケアハウスにおいては永年料金の引き上げができない状況であり、今後益々経営困難に陥ると思われる。（入居系）
- ・公定価格の介護報酬を高騰分アップするか、緊急支援を継続するか国の施策が必須。（入居系）
- ・2024年の介護保険改正を待たずに、基本単価改正を行うべきであると考え。業務改善・経費節減を行い普通の介護を行おうとしても、支出が収入を上回る状態。修繕積立金等も予定通りに積み立てていない現状であり、法人存続に非常に危機感を抱いている。（入居系）
- ・コロナ禍前と比較して利用控え等により明らかに稼働率が低下している。世間では物価高により人件費を上げる話があるが、現在でも介護職の平均年収はその他の業種との乖離がある。さらに介護保険で補填して頂く必要がある。経費も増える一方なので、基本単位数の増加と食費の増額が必要である。（入居系）
- ・近隣（数km圏内）に特養を含む高齢者施設が次々と開設し、今後数年は職員の確保、入居希望者の減少など厳しい経営状況が続くと予想している。この地域一帯にこれほどまでに開設が認められている理由が分からない。（入居系）
- ・介護報酬については、神戸市においては4級地⇒3級地へ地域区分を変更願いたい。（入居系）
- ・通所サービスに関しては、サービスの利用控えに対しての収入減に関する補填は全くなく、人件費や経費の増加は変化がないためかなり利益が下がっている。稼働率を上げる努力は必要だが、今までで一番厳しい状況になっているのは間違いない。（通所系）
- ・国を挙げて福祉サービスの質の向上と福祉資源の維持向上に力を注いでいただきたい。（通所系）
- ・国の方針が防衛費と少子化対策に向いており、高齢者から削られるのでは無いか、と言う懸念。（訪問系）

<その他>

- ・今後存続が厳しいかもしれない。（入居系）
- ・コロナ感染症の影響、物価高騰のダブルパンチで、経営が非常に悪化している。特に老健の新規相談件数が全体的に減少し、病院から特養などへの流れが強くなっている影響を直撃している。（入居系）
- ・今までにないくらい厳しい経営状況になっている。経費削減や効率化等のみでは限界が来ている状況。コロナ禍で医療・介護業界は今冬も一般企業と違い、感染対応で苦慮しているストレスも多い状況が継続している。大企業は昇給をしているが、この状況が継続すれば、大幅な昇給は難しい状況。事業として撤退等考える事業所が増えないように、介護報酬の改正でご配慮頂ければと思う。（入居系）

- ・ コロナの対応疲れが職員から出ている。職員も法定人員内では行なっているが満足に足りていない状況。国が実際の法定人員で本当に業務遂行が可能と思っているのか疑問。人件費率もふまえての人員調整をしている中、満足な人数で介護ができていないが為に全国で起きている虐待に繋がっているとは思わないのか？介護ロボットを入れたら人が減る、介護ロボットを入れたら楽になるのは多少の話であって根本解決には至っていないと思う。 (入居系)
- ・ 居宅介護支援事業所から利用者を紹介されるケースが無い。あるといても職員たちの必死の宣伝や営業によって利用者自身が私たちのデイサービスの利用をケアマネージャーに申し出たケースがほとんどだ。また利用者が私たちのデイサービスを利用したいと申し出たにも関わらず、ケアマネージャーが所属するデイサービスを強制的に利用させるケースも聞いている。そのようなことがあつては介護事業全体にとっても利用者にとってもよくないのでしっかり統制していただきたい。 (通所系)
- ・ いかにも新規利用者を確保し定着してもらえかが経営に影響するかと考え、出来る限り新規利用の獲得を目指して営業を行っている。人件費の高騰や物価の上昇の影響で今まで通りの収入では収支のバランスはとれない為、ケアマネージャーから情報収集を行い、サービス内容を出来る限り現在の利用者の要望に沿って改善しながら満足度の高いサービスの提供を行っていく。 (通所系)
- ・ サービスを控える方の増加により経営状態がより悪化し人材の流出が懸念されます。 (訪問系)
- ・ 非常に厳しい状況である。 (訪問系)
- ・ 病院入院者にまで利用者紹介業者の手が入り、紹介料が発生していること。 (入居系)